

令和7年度
すくわくプログラム活動報告書

(実施対象：3歳児クラス)

モニカ都立大園

M  nica

テーマ

植物の根・種

設定理由

カップに人参のヘタを入れて育てる中で、カップから水がなくなると「お水を入れないと元気がなくなっちゃう」と水を入れようとする姿や野菜に関心を持ち関わる中で「美しい」「面白い」と感じている様子がある。野菜についての疑問をすぐに調理師に聞いたり、畑を作ったりすることができる環境を活かして、活動に取り組むことができると考えた。

対象クラス

3歳児クラス・16名

活動のねらい

土植物や種に触れることを通して、自然との共感的な関係性を育む

問い

「ここどうなっている？」
「土の中はどうなっているのかな？」

活動期間

令和7年4月～7月

活動回数

計6回

活動①

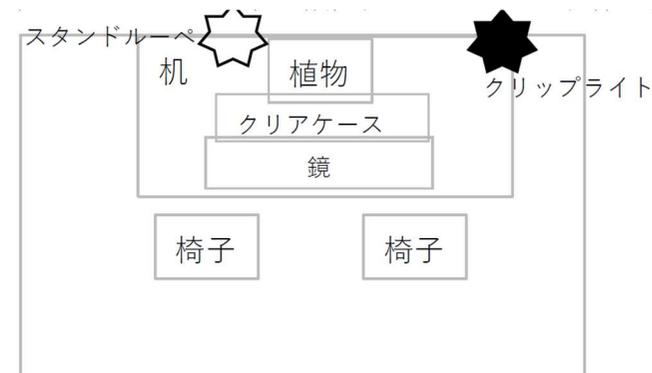
根っこを描く

準備物

机(1) | 椅子(2) | アイビー(2) | クリアケース(1)
鏡(1) | スタンドルーパー(1)
1/8サイズの黒画用紙 大(16) | 白色鉛筆(2)
クリップライト(1)

環境構成

廊下で壁に向かって机を設置、子ども2人ずつ、
保育者1名



活動②

土の中を想像して描く

準備物

机(1) | 椅子(2) | 透明なプランターに植えた二十日大根
葉を出した二十日大根の見える部分の写真を貼った黒画用紙(16)
白色鉛筆(2)

環境構成

廊下で壁に向かって机を設置、子ども2人ずつ、
保育者1名



活動③

種からの発芽の様子を体で表す

準備物

プロジェクター(1) | スクリーン | パソコン(1)
ホールを仕切る白幕

環境構成

ホールを半分に仕切り、プロジェクターを設置。
子ども4人ずつ、保育者1名



活動④

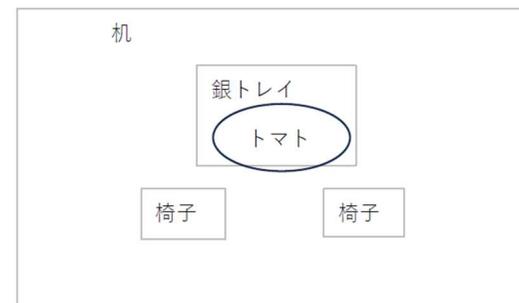
種を取り出す

準備物

机(1) | 椅子(2) | 切ったトマト | 銀トレイ(1)
長方形の用紙(1) | 野菜・果物の図鑑

環境構成

廊下の壁に向かって机を設置、子ども2人ずつ、
保育者1名



活動⑤

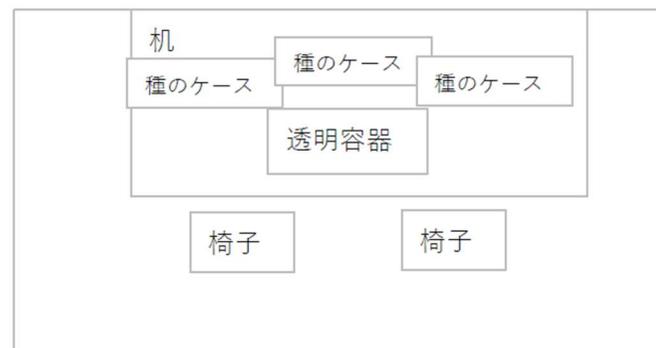
種の浮き沈み実験

準備物

机(1) | 椅子(2) | 集めた種が入ったケース(3)
水を入れた透明容器(1)

環境構成

廊下の壁に向かって机を設置、子ども2人ずつ、
保育者1名



活動⑥

種からの発芽を表現する

準備物

トンネル(1) | クリップライト(1) | マット(2)
ホールを仕切る白幕

環境構成

ホールを暗めに設定、子ども4~5人ずつ、
保育者2名



活動① 根っこを描く

R7年4月

保育室で育てているアイビー。水をあげると大きくなる。アイビーが水を飲んでいることは知っていたが、どこから飲んでいるのかまだ知らない子どもたちの姿から根っこの探究が始まった。



根っこを横から見たり、前から見たり、根っこが映った鏡を見たり、様々な角度から観察する子どもたち。「なんかによろよろへびみたい」「グルグル～ってしてるね」「葉っぱから根っこが生えてるね」。静かな空間で根っこと向き合うと見えてきた形。太い根っこから細い根っこが生えていることに気が付いたりと感じたことを保護者や友だちと共有したり、へびやカニに見立てて根の形を表現したりする姿があった。また、見るだけでなく根っこを手にとってじっくり観察をしてから描く姿もあった。

普段の生活の中で子どもたち各々が「根っこ伸びてる」「大きくなってる」など根っこの生長に気づく姿があったが、この活動を通してより根っこの生長だけでなく生え方や形に着目することが出来たように思う。また、ライトや鏡を使用したことで美しさを感じ、目で見るだけでなく手に取って観察する姿も見られた。この活動後からは、活動前よりもアイビーの根っこの生長により興味を深め保育者や友だちに「足(根っこ)がもっと増えてる」「お水ごくごく飲んでもよ」と気づきを共有する時間が増えたように思う。



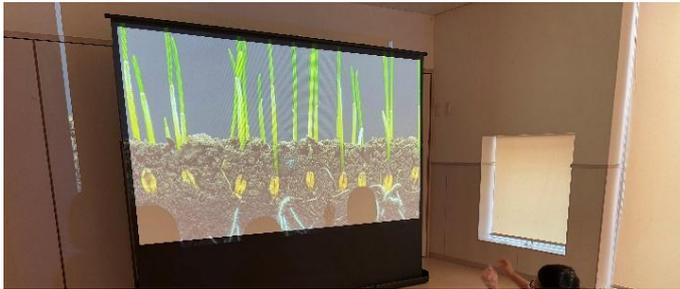
鉢の中の世界を可視化できるように、透明なプランターに二十日大根を植え、育てることになった。これまでも雑草やアイビーなど、様々な根っこを見て触れてきていたので「土の中にはどのような世界が広がっているのかな?」「ひよろひよろ根っこかな?太い根っこかな?」「この赤い茎(画用紙に貼ってある写真)の続きを描いてみよう」と問うと、自然とペンを走らせる子どもたち。

「ひよろひよろ根っこがたくさんあると思う」「下まで根っこが伸びてるはず」

「大きくて丸い二十日大根が出来てると思う」「細長い二十日大根かも」「ひよろひよろ根っこの先っぽに二十日大根ができていよ」

「植えた種が大きくなってそこから二十日大根が生えてるはず」

ひよろひよろ根っこ、丸い二十日大根、細長い二十日大根、大きくなった種…これまでの活動を経て、それぞれが想像する根っこが生まれた。



発芽の様子動画を流すとじっと映像を見ていた子どもたち。保育者が「みんなが育てているルッコラみたいだね」と言葉をかけると「こうなってるね」とくねくねと手と腕を使って動かし始めた。保育者も一緒になって「こうなっているね」と子どもと同じ動きをすると、その姿を見た他の子どもたちも一緒になって手を動かす姿があった。



「ニョキニョキ」「ぱかっ」と言葉を発しながら全身を動かす。芽に見立てた手をできるだけ高く上に伸ばそうとつま先立ちになって表現する子や、身体をくねくねと動かし揺れている様子を表現したりと、自然と全身を使って発芽の様子を表現した。



種からの発芽に着目し、身体を小さく丸めて芽が種だった時の様子から、立ち上がって手を伸ばし発芽した様子を身体で表現している姿も。その動きを見て、周りの子どもも一緒になって表現を楽しんでいた。

子どもたちから自然と「ニョキニョキってなってるね」と言ったり、手を使って芽を表現したりと、主体的に活動する姿が見られた。また、友だちと一緒にいることで「楽しそう」「やってみよう」という気持ちが芽生え積極的に身体を動かす姿が多く見られた。観察や描くことでの表現ではなく、自分自身の身体や表情で種や芽を表現したことで、より種への共感的な関係性が育まれていくことを感じた。



自分達にとって身近な野菜から種を取り出す活動をした。断面を見ると「種がいっぱい入っているね」「なんかぬるぬるしている」と言っていた。「トマトの奥にも何かあるかもしれないよ」と声をかけると指をトマトに入れ込み「こんなに出てきた」と目を見開いて出てきた種を保育者に見せる姿があった。



長方形の画用紙を渡すと、一つ一つ種を並べる姿があった。「種の周りのこれ（ゼリー状の部分）何？」と疑問を持ち、図鑑を見て保育者と一緒に調べた。ゼリー状の部分は栄養がたくさん入っていることを知った。



「種はこのお部屋（子室）にいたんだね」と声をかけると「お部屋の中に、まだ種いるんじゃない？」と言って絞るように潰した。沢山の水が出てきたが、種が出てくることはなかった。「なんでこんなに沢山の水が出てきたのかな？」と問うと、「トマトも根っこから水を沢山飲んだからじゃない？」と予想を友だちと共有する姿があった。

身近な野菜から種を取り出したことで、種を身近な存在に感じる事ができた。今まで何となく食べていた野菜の中に種があること、種の付き方、触り心地、匂い、種の量等、種についてより知ることができた。また、保育者の声掛けから「こうしたらどうなるだろう」「こうなっているのではないか」と子ども自身が疑問を持ち、考えて手を動かす姿があった。今後も活動のねらいや目的に沿った言葉掛けを継続していき、子どもたちと一緒に探究活動を進めたいと感じた。



昼食に出たスイカの種を取り出して洗っていると、スイカの黒い種は水に沈んで、白い種は浮かぶことに気付いた子どもたち。そこで、水に浮かぶ種と沈む種を調べてみるようになった。

種を一種類選び「これは水に浮くかな？それとも沈むかな？」と問いかけると「浮く」「沈むよ」と想像をしていた。水に入れて浮いた種を見て「え！種さん泳いでるね、泳げるんだね」と種に話しかける姿があった。その言葉をきっかけに「この種は泳げると思う」「梅干しの種は泳げないんじゃない？」と「浮く・沈む」という言葉を「泳ぐ・泳がない」と表現するようになった。

また、「なんで泳がないと思うの？」と理由を問うと「アボカドの種は大きくて大人でしょ？だから泳げるの。こっちのパプリカの種は小さくて赤ちゃんだから泳げないんだよ」と種を自分たちヒトと照らし合わせながら想像する姿が見られた。

種の種類ごとに仕切りを作って小さなお部屋を作って観察できるようにすることで、種を擬人化して表現する姿が見られるようになった。「わたしたち」と「種」は違う存在でありながらも、そこに命を宿し自然と自分に置き換える、種への共感性が見られた瞬間になった。

この活動を経て、子どもが自ら種へ親しみを込めた言葉をかけるようになり、活動の継続性の重要さを感じた。また、比較をすることで理解や興味が深まっていると感じた。子どもの姿を常に捉え、興味や疑問がさらに広がるような環境設定を行っていきたい。



種の発芽の様子を体で表現した。トンネルを暗い土の中に見立て、ゆっくり歩みを進めていた。「土の中は暗いね…」と慎重ながらも、土の中を抜けた先に何が待っているのか期待しているような表情を浮かべている。暗いトンネルを抜けるとそこには光が。自然と顔が上に向き、表情も明るくなっていた。マットの上でコロコロと転がると立ち上がり、その頭には双葉が。「見て！葉っぱが出てきたよ」と背伸びをしながら表現していた。

種に気持ちはないかもしれない、しかし種とかかわり種について知っていく中で「なんだか嬉しそう」「種が落ちている、かわいそう」と育っていく共感性。種からの発芽を自身の体で表現しようと設定した環境だったが、表情の表現も印象的だった。心と体で表す子どもたちを見て、種への共感的なかかわりをより感じる事ができた。

使用物

ルッコラ苗 | スタンドルーペ | クリップライト | 透明育苗ポット
培養土 | 記録用PC | 二十日大根

テーマ：植物の根・種

全体の振り返り

着目する部分を種や根に絞り、種からの発芽、根の成長と出会った。心を寄せて言葉をかけたり、世話をしたり、疑問を抱く活動を通して、植物も私たちと同じように生きていることを感じられる活動になったのではないかと思う。子どもたちの「どうしてだろう?」「なんでこうなるのだろう?」等の問いから、想像したり、調べたり、実際に観察したり、表現したりと様々な方法で種や根と関わったことで、より深くじっくりと植物に向き合う姿が見られた。プロジェクト活動の終盤では種や根だけでなく、植物全体へと興味が広がり、植物との共感的な関係性が育まれていったように思う。今後も子どもたちの植物を愛おしく思う気持ちを大切に日々の保育をしていきたい。

終



株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ都立大園

〒152-0034
東京都目黒区緑が丘1-2-14
TEL:03-5726-9145
FAX:03-5726-9146